トステム株式会社 アルファテラスL型　木目調 取付け説明書

※▭内は、ロットNo.表示位置を示します。

■施工される方へのお願い

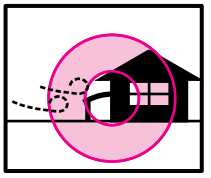
●同梱されている取扱い説明書は、必ずお施主様へお渡しください。
●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

⚠注 意 …取付けを誤った場合に、使用者が中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

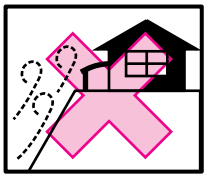
⚠注 意

※製品破損による人への被害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。

●設置条件
・それぞれの地域に対応したテラスをお選びください。
　一般地域600タイプ→耐えられる積雪量の目安20cm相当〔600N/㎡（61.2 kgf/㎡）〕
　特殊地域1500タイプ→耐えられる積雪量の目安50cm相当〔1500N/㎡（153.0 kgf/㎡）〕
・本製品は木造住宅の1階にのみ設置可能となっております。2階以上の高所には、取付けないでください。
・柱の移動は、当社指定範囲内にしてください。
・他社商品（バルコニーなど）と組合わせて設置しないでください。
・母屋の屋根からの雪が直接落ちない場所に設置してください。落雪により製品が破損するおそれがあります。



・風当たりの強いところでは風が抜けなくなりますので、テラスの周囲を囲わないでください。
・崖っぷちなどの高低差のあるところには設置しないでください。



●躯体への固定
・タッピンねじは柱・間柱・胴差しなどの構造材に必ず止めてください。躯体位置が分からない場合、及び躯体の強度が保持できない場合は取付けないでください。
・躯体が経年変化などで損傷が著しい場合は、施主様と打合わせをし、必要に応じて補強してから取付けてください。
・プラグ類を使用して、モルタル部分だけで固定することは非常に危険ですから絶対に行わないでください。
・タッピンねじの下穴には、指定より太いドリルを使用しないでください。

●部材の固定
・組立てねじ・ボルトは必ず指定のものを使用してください。又、使用中緩まないように締付けてください。

●施工時の足場について
・施工時は必ず足場を設け、転落などの危険がないようにしてください。

●基礎について
・基礎は当社指定寸法以上にしてください。
・海砂を使用の場合は、水洗いしたものを使用してください。アルミが腐食するおそれがあります。
・施工前に調査を行い、地下埋設物（給排水管など）に影響を及ぼさないようにしてください。
・寒冷地では凍上線より下まで柱を埋込んでください。凍上により浮上するおそれがあります。
・柱（屋根柱は除く）には水抜きできるよう、柱基礎には必ずぐり石を敷き、柱と基礎の付け根に水抜き穴（φ6）をあけてください。柱間の水が凍結膨張し、柱が破損するおそれがあります。
・養生期間は十分（4日～1週間以上）にとり、その間は、重たいものをのせたり、振動を与えたりしないよう指示してください。

⚠ 注　意

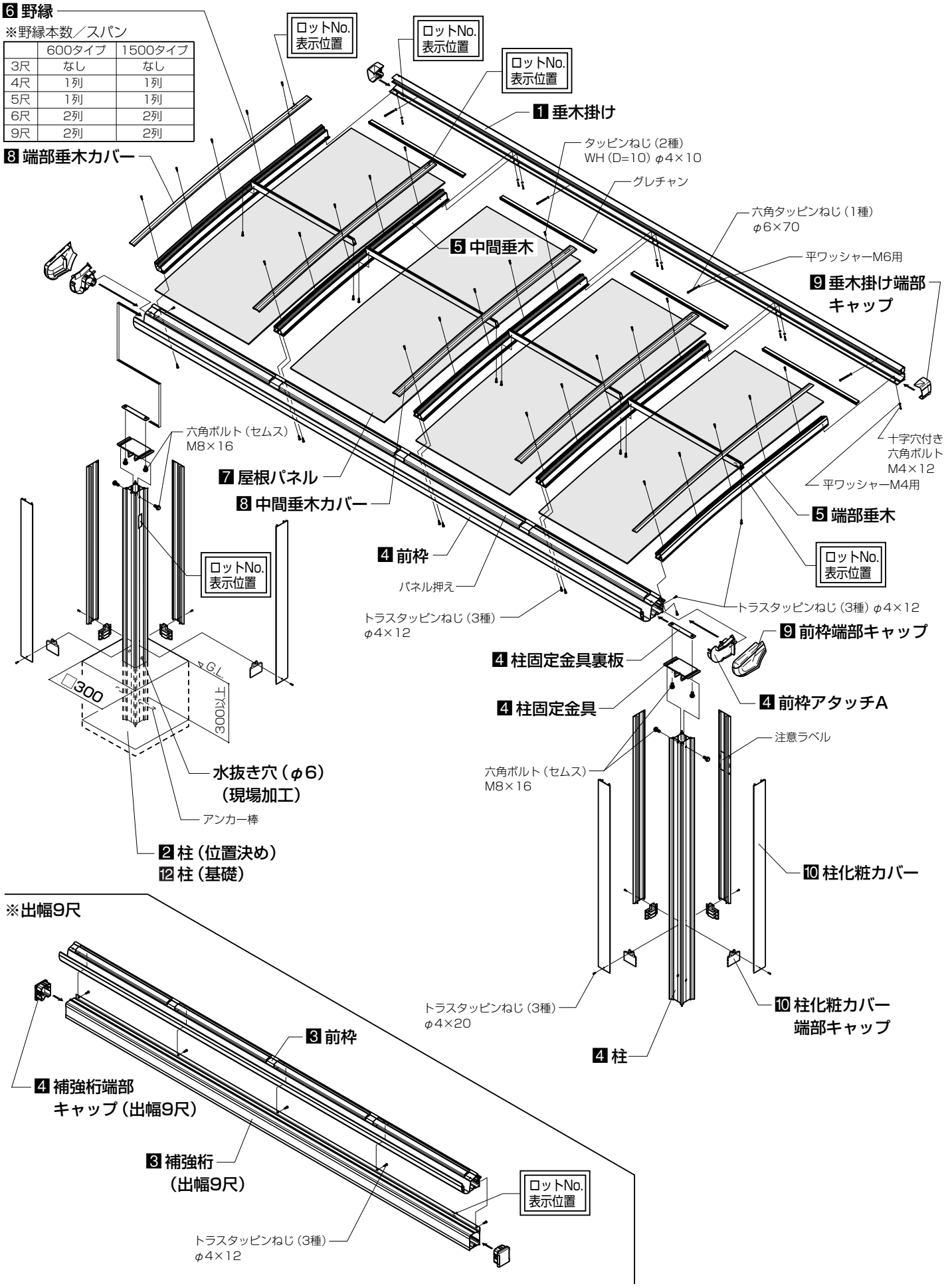
●パネルについて
・屋根パネルは当社指定品をご使用ください。
・屋根の取付けは垂木へののみ込みが左右均等になるようにしてください。パネルが強風により、飛散するおそれがあります。
●施工上について
・施工は専門業者が行ってください。
・みだりに改造・変更をしないでください。
・前枠の内観右側にブランドラベルが張ってあります。間口切詰めをする際には、ブランドラベルがなくならないようにしてください。
・当社指定の付属品以外は取付けないでください。
※製品腐食のおそれがありますので下記事項をお守りください。
●絶縁処理
・アルミ形材が亜鉛・ステンレス以外の金属と接触するときは、絶縁処理をしてください。
※水漏れのおそれがありますので下記事項をお守りください。
●シーリングについて
・シーリングは指定個所に必ず行ってください。
・外壁の上から部材を取付ける場合は、コーキング材を下穴に充てんしてからねじ止めしてください。

■施工上のお願い

●水平・垂直は水準器などで正確に出してください。
●柱化粧カバーを取付ける際は、注意ラベル及び取扱い説明書が必ず内側（躯体側）にくるように取付けてください。

■構造説明図

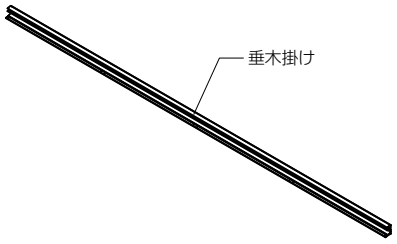
※図は、アルファテラスL型　木目調　600タイプ　間口1.5間、出幅4尺を示します。



	600タイプ	1500タイプ
3尺	なし	なし
4尺	1列	1列
5尺	1列	1列
6尺	2列	2列
9尺	2列	2列

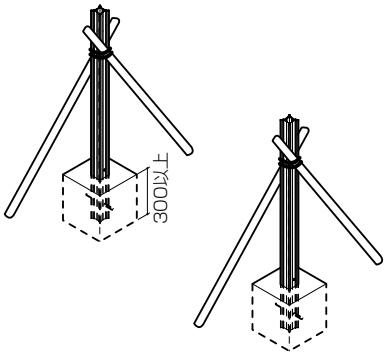
■取付け順序

1 垂木掛けの固定

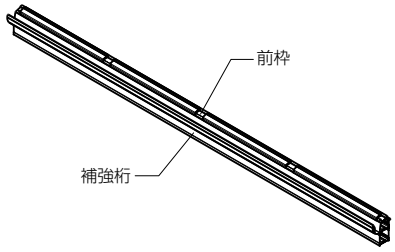


2 柱の位置決め

①柱埋込み位置決定
②柱の仮固定

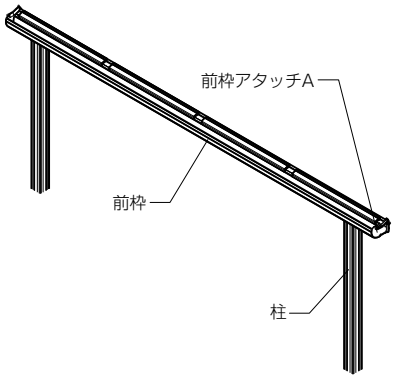


3 前枠ー補強桁の取付け（出幅9尺）



4 柱ー前枠（補強桁）の取付け

①柱固定金具と前枠（補強桁）の固定
②雨どい部品の取付け
③前枠アタッチの取付け
④柱固定金具と柱の固定



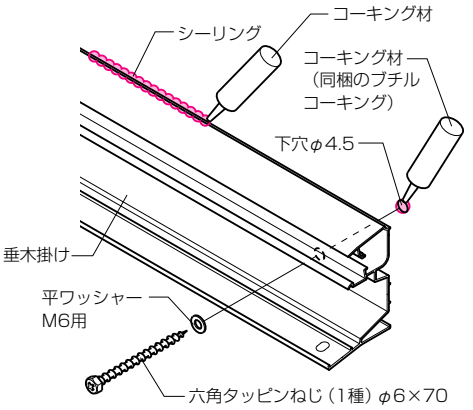
■取付け詳細

1 垂木掛けの固定

●垂木掛けを躯体に取付ける際、必ず水準器で水平を出してください。

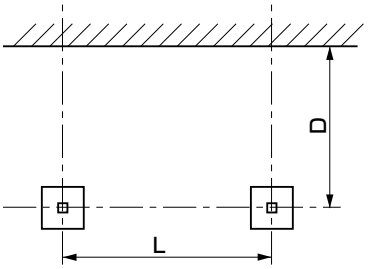
⚠ 注　意

●垂木掛けは必ず躯体の柱・間柱などの構造材に取付けてください。
●躯体が経年変化などで損傷が著しい場合は、お施主様と打合わせをし、必要に応じて補強してから取付けてください。
●指定の個所に必ずシーリングしてください。



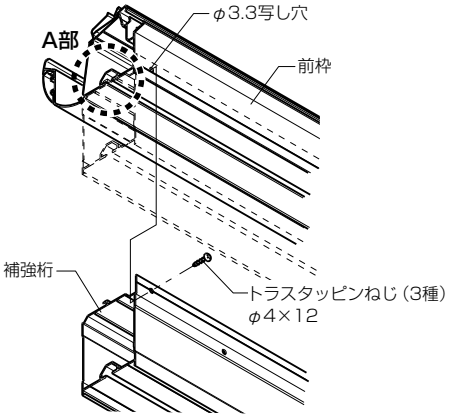
2 柱の位置決め

①柱埋込み位置を出し、基礎穴を掘ります。柱の位置は右図と 14/14 の納まり図を参考に決めてください。
②柱が倒れないように仮固定してください。



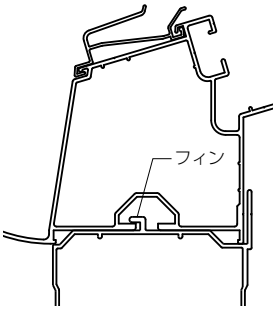
3 前枠ー補強桁の取付け（出幅9尺）

①前枠にφ3.3の写し穴をあけた後、前枠と補強桁をねじ止めしてください。



■A部詳細図

※フィンが引っ掛かっていることを確認して取付けてください。

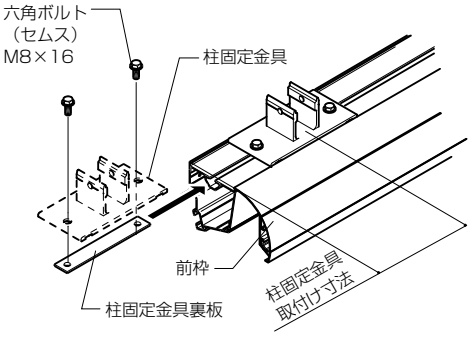


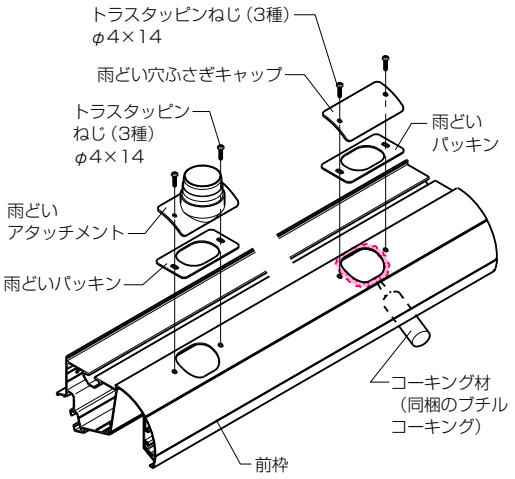
4 柱ー前枠（補強桁）の取付け

①柱固定金具裏板を前枠（補強桁）の溝に挿入し、下表に従い柱固定金具とボルトで仮固定してください。

	1.0間	1.5間	2.0間
関東間	215	142.5	75

②前枠に図のように雨どい部品を取付け、シーリングしてください。





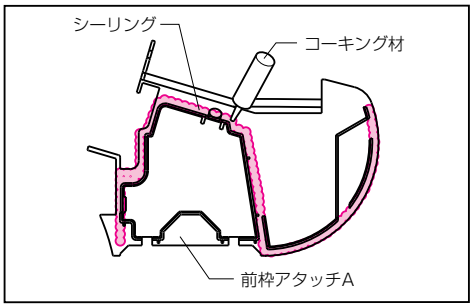
⚠ 注　意

●指定の個所に必ずシーリングしてください。

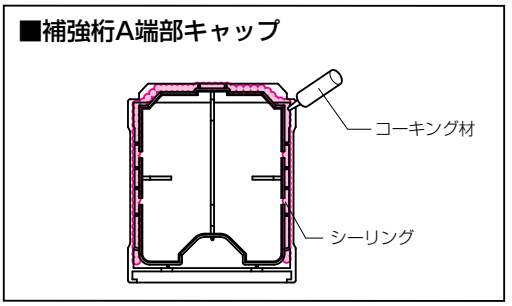
⚠注　意

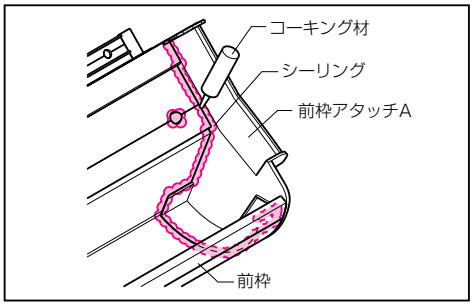
●指定の個所に必ずシーリングしてください。

③補強桁端部キャップにシーリングした後、補強桁に取付けてください。（出幅9尺）
※補強桁B・C端部キャップの場合は、補強桁に取付け、ねじ止めてください。（出幅9尺）
④前枠アタッチAを図のようにシーリングした後、前枠に取付け、ねじ止めしてください。
　その後、前枠アタッチとの接合部と前枠アタッチ取付け穴をシーリングしてください。
※1500タイプの場合は、前枠アタッチBを取付けた後、前枠アタッチAを取付けてください。
⑤前枠と前枠化粧カバーを固定しているねじ回りにシーリングしてください。

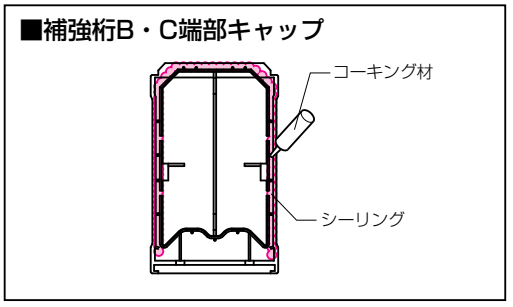


■補強桁A端部キャップ

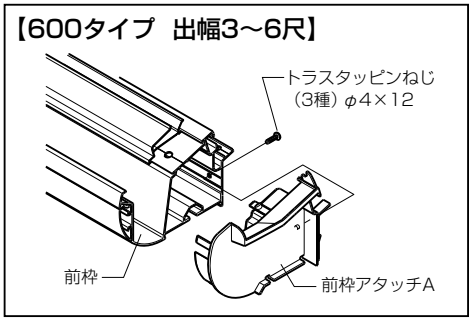




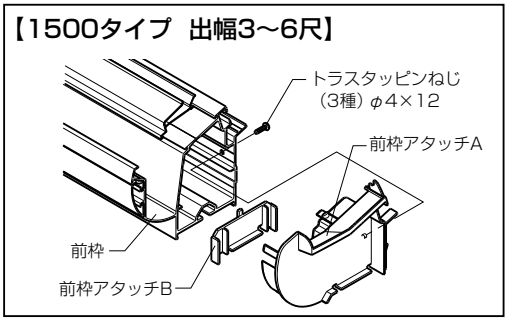
■補強桁B・C端部キャップ



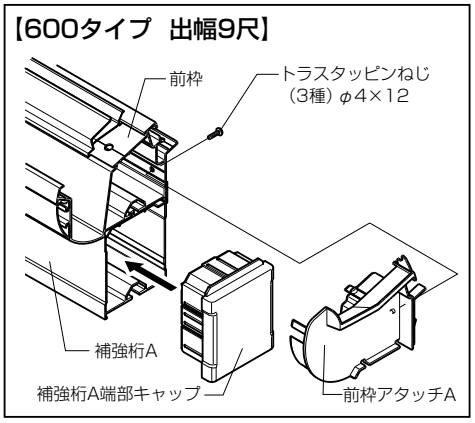
【600タイプ　出幅3～6尺】



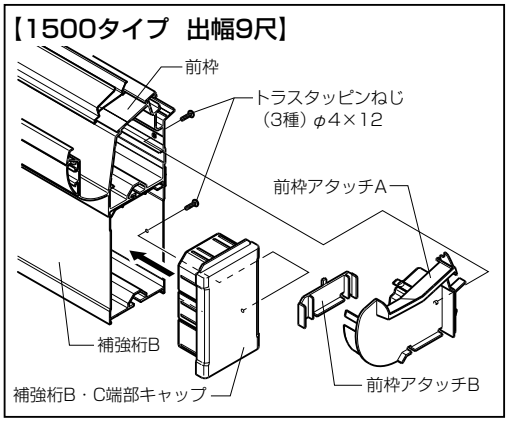
【1500タイプ　出幅3～6尺】

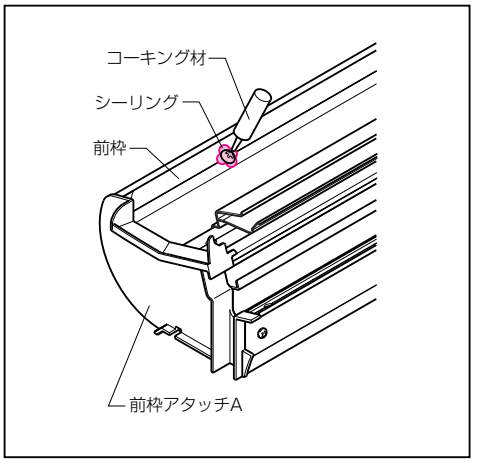


【600タイプ　出幅9尺】

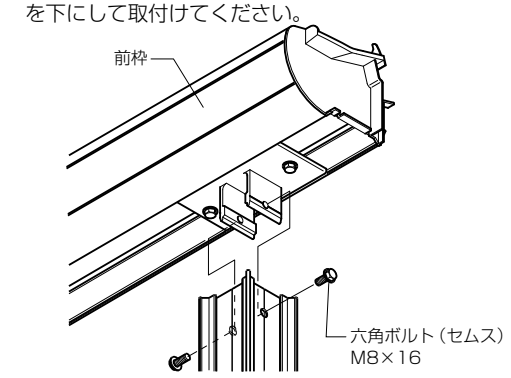


【1500タイプ　出幅9尺】

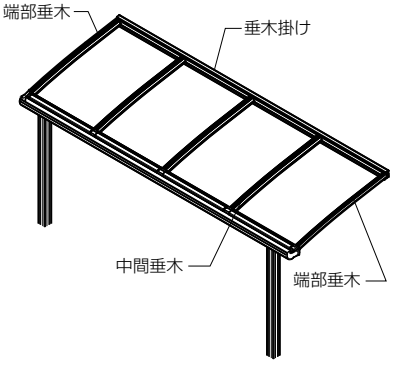




⑥柱固定金具を柱に差込み、固定してください。
　その後、前枠と柱固定金具を固定してください。
※柱には上下があります。φ3.5の穴があいている方を下にして取付けてください。

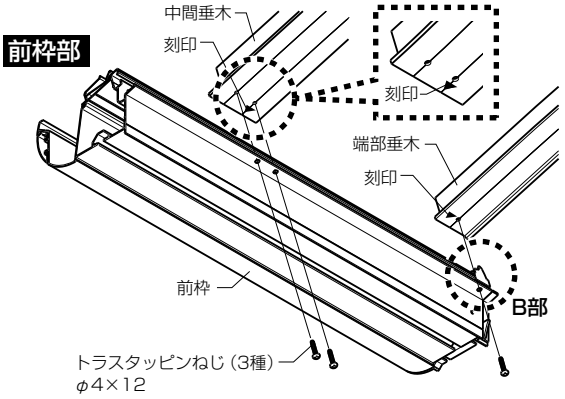


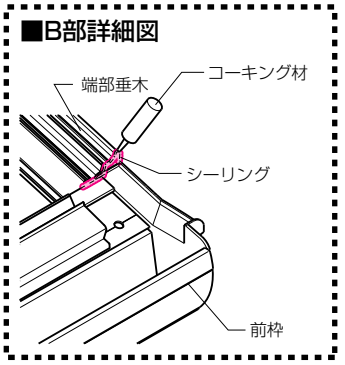
5 端部垂木・中間垂木の取付け



5 端部垂木・中間垂木の取付け

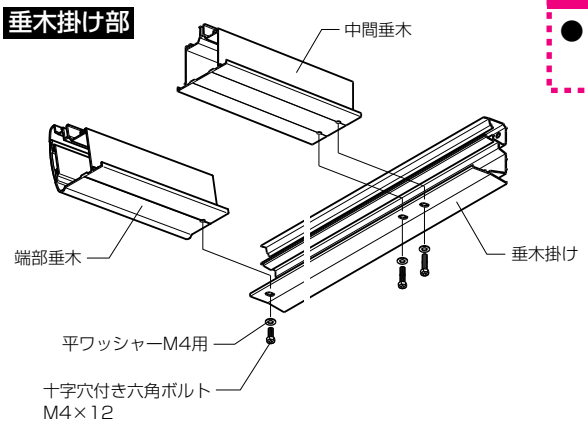
①図のように端部垂木・中間垂木を前枠・垂木掛けに取付けてください。
※端部垂木・中間垂木には前後があります。垂木下面に▲の刻印がある方を前枠に取付けてください。
※本体の対角を必ず出してください。
②前枠と端部垂木接合部を図のようにシーリングしてください。



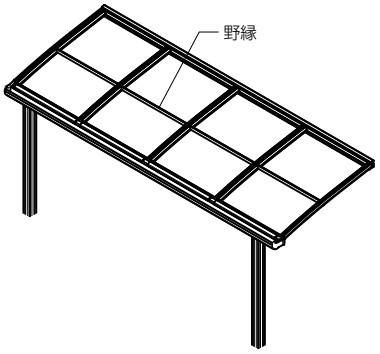


⚠ 注　意

●指定の個所に必ずシーリングしてください。

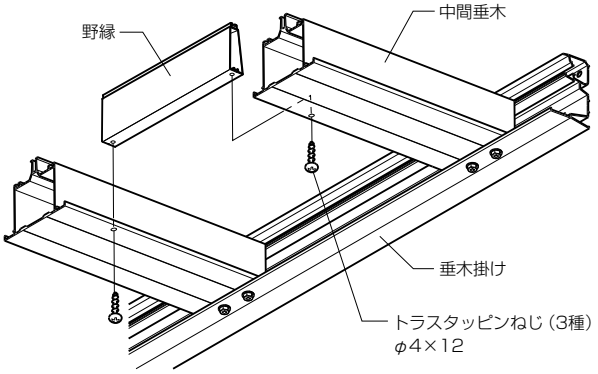


6 野縁の取付け

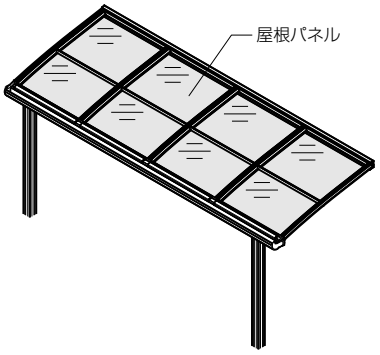


6 野縁の取付け

●真中のスパンから順に図のように野縁を中間垂木又は端部垂木にねじ止めしてください。
※出幅3尺は野縁の取付けは不要です。

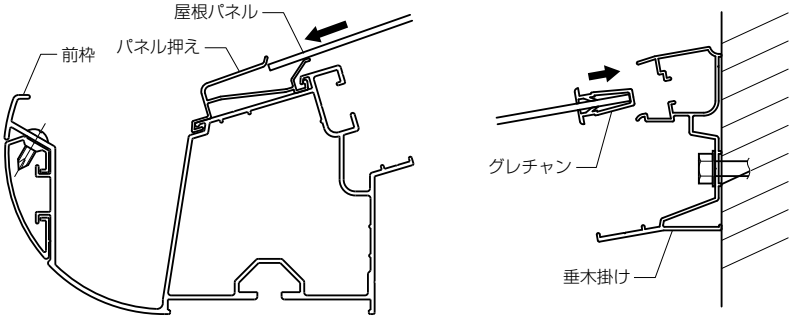


7 屋根パネルの取付け

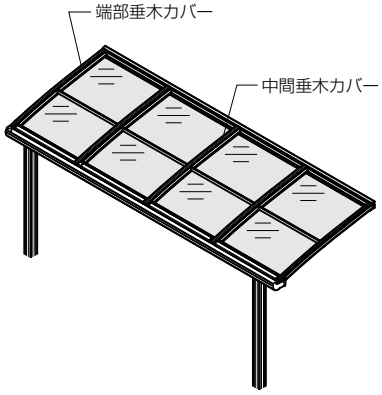


7 屋根パネルの取付け

●グレチャンを取付け、図のように垂木掛け、前枠パネル押え部に取付けてください。

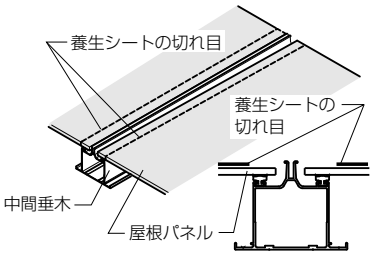


8 端部垂木カバー・中間垂木カバーの取付け



⚠注　意

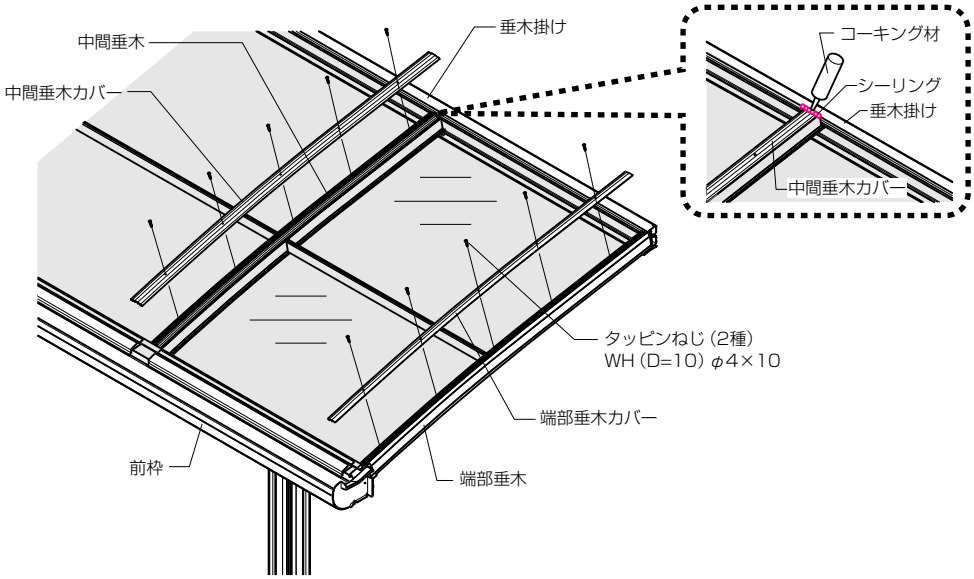
●屋根の取付けはパネルののみ込みが左右均等になるようにしてください。



※9尺は片側のみ養生シートの切れ目があります。

8 端部垂木カバー・中間垂木カバーの取付け

①垂木カバーを垂木掛け側から押込み、図のようにねじ止めしてください。
※垂木カバー固定ねじの本数は、1本～10本の予備ねじが含まれています。
（予備本数はサイズによって異なります。）
②図のようにシーリングしてください。



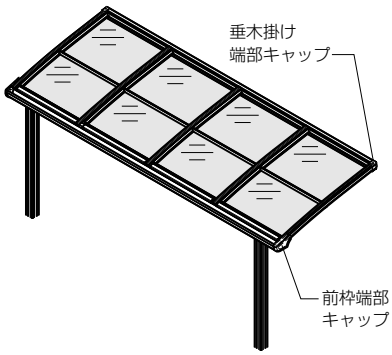
⚠注　意

●指定の個所に必ずシーリングしてください。
●シリコンシーリングを行う場合、アクリル板及びポリカーボネート板のひび割れなどが考えられますので、当社指定のアルコール系コーキング材を使用してください。

・信越化学工業　シーラント72
・東芝シリコーン　トスシール380
・トーレシリコーン　SE960

9 前枠端部キャップ・垂木掛け端部キャップの取付け

①前枠端部キャップの取付け
②すき間ふさぎ材の張付け
③垂木掛け端部キャップの取付け

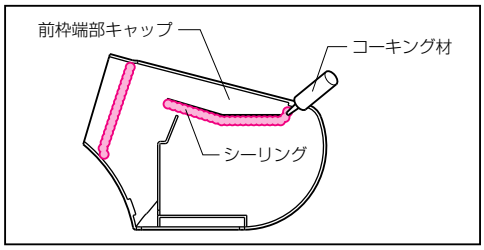


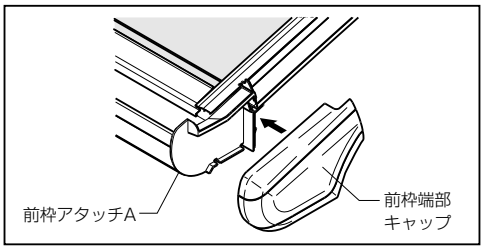
⚠注　意

●指定の個所に必ずシーリングしてください。

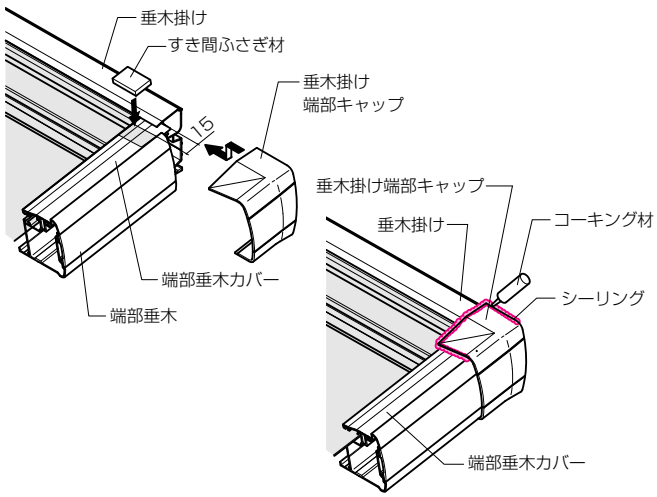
9 前枠端部キャップ・垂木掛け端部キャップの取付け

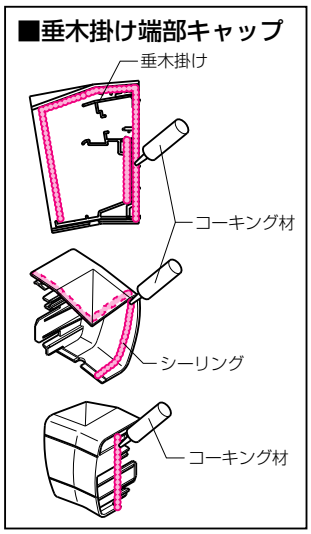
①前枠端部キャップに図のようにシーリングした後、前枠アタッチAに取付けてください。





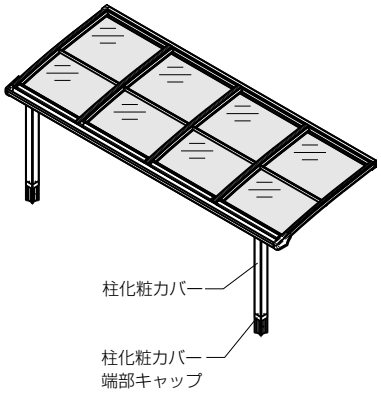
②端部垂木カバーの端部より15mmのところにすき間ふさぎ材を張ります。
③垂木掛け端部キャップにシーリングをした後、垂木掛け上部に押さえ付けながらキャップを取付けてください。その後、垂木掛け端部キャップの上部に図のようにシーリングをしてください。



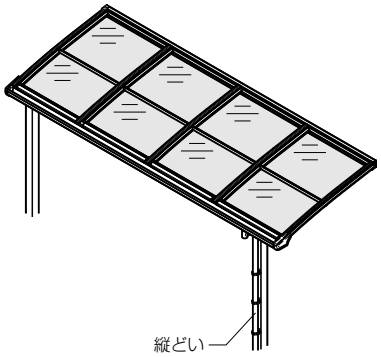


10 柱化粧カバーの取付け

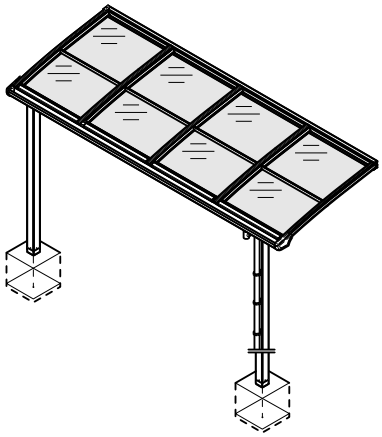
①柱化粧カバーの取付け
②柱化粧カバー端部キャップの取付け



11 雨どいの取付け

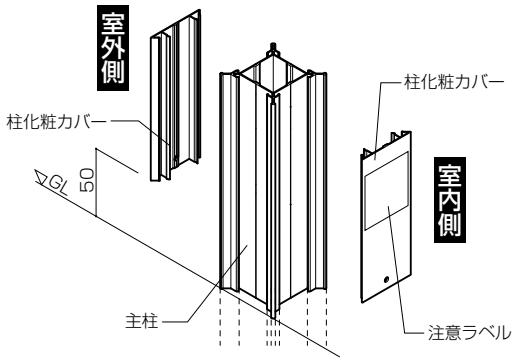


12 柱（基礎）

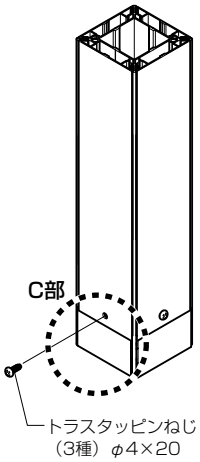


10 柱化粧カバーの取付け

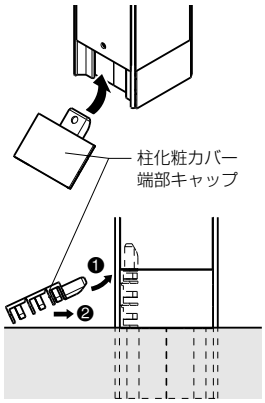
①柱化粧カバーを上部は前枠（補強桁）に突きあて、下部はGLより50mmあけて取付けてください。
（50mm以下になる場合は、柱化粧カバーを上部より切断し、取付けてください。）
※柱化粧カバーを取付ける際は、注意ラベル及び取扱い説明書が張ってある柱化粧カバーを内側（躯体側）に取付けてください。



②柱化粧カバー端部キャップをねじ止めしてください。

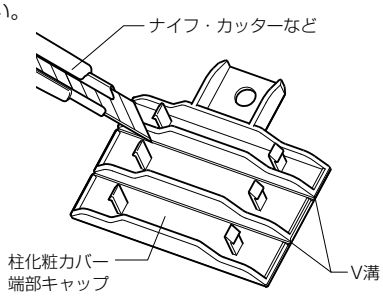


■C部詳細図



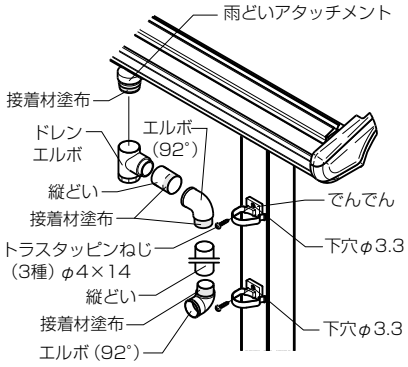
■柱化粧カバー端部キャップの取付け

※基礎の水こう配などによりコンクリート（又はモルタル）が柱化粧カバー端部キャップにかかる場合は、ナイフ・カッターなどでV溝にそって切断し、取付けてください。



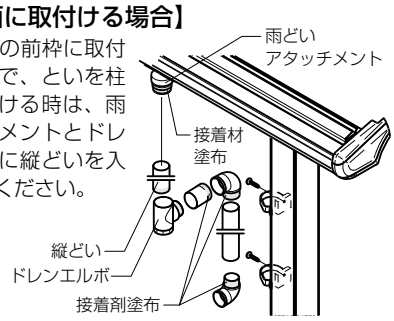
11 雨どいの取付け

●図のように雨どい部品を取付けてください。

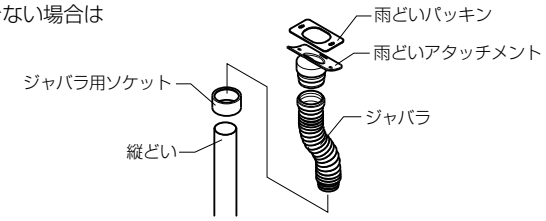


【雨どいを側面に取付ける場合】

※1500タイプの前枠に取付ける場合などで、といを柱の側面に取付ける時は、雨どいアタッチメントとドレンエルボの間に縦どいを入れて調整してください。



※柱移動によりドレンエルボが使用できない場合はジャバラを使用してください。

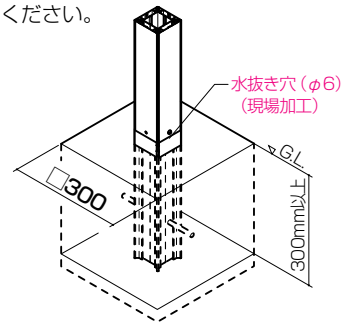


12 柱（基礎）

①図の寸法で、柱埋め込み穴をコンクリート（又はモルタル）で埋めてください。
※基礎に水が溜まりやすい場合は、基礎自体に水こう配をつけてください。
②柱と基礎の付け根に水抜き穴（φ6）をあけてください。

⚠ 注　意

●地下埋設物（給排水管など）に影響を及ぼさないようにしてください。
●コンクリート（又はモルタル）に急結材は絶対に使用しないでください。
●海砂はアルミを腐食させるおそれがありますので、水洗いしたものをご使用ください。



■連棟タイプの場合

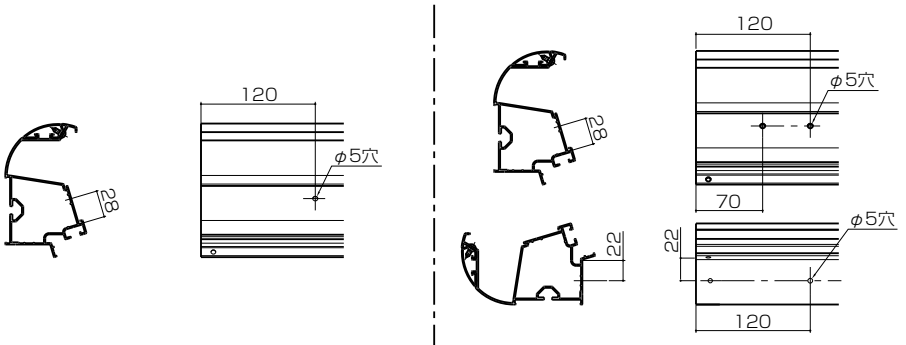
※連棟時の間口部材（前枠・垂木掛け）の切詰めは不要です。

1 前枠・補強桁の加工

※補強桁の加工（出幅9尺）

1 前枠・補強桁の加工

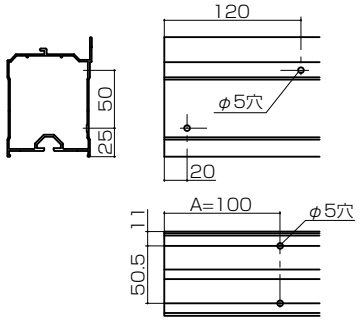
●前枠の連結する側の端部に図のようにφ5の穴をあけてください。



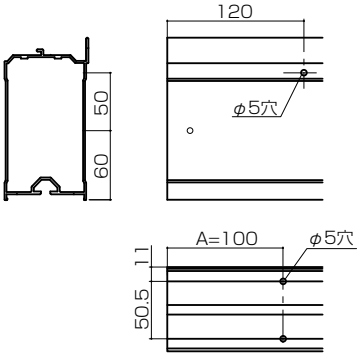
【連結部に柱を取付ける場合】　【連結部に柱を取付けない場合】

※1500タイプの前枠についても同様の加工をしてください。

●補強桁Aの加工



●補強桁Bの加工

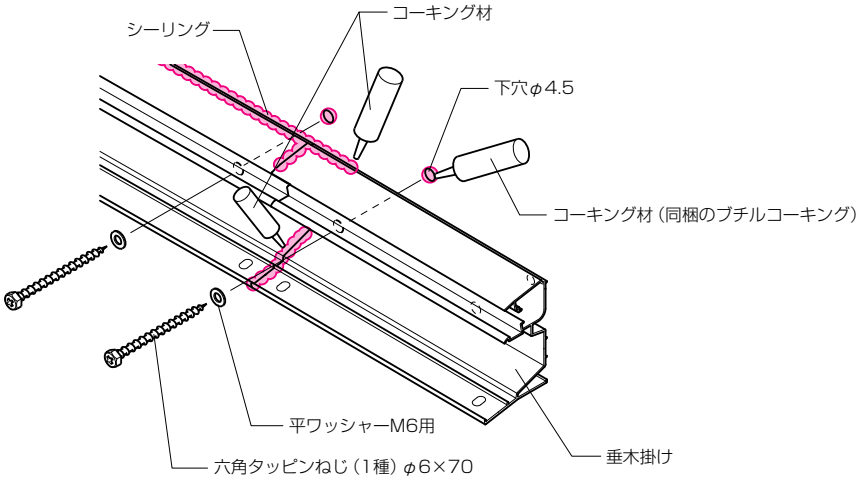


※連結部から柱を移動させた場合、ねじが柱固定金具と干渉する場合がありますので、柱固定金具をよけた所に加工してください。ただし、A寸法は連結部より120mm以内にしてください。

2 垂木掛けの取付け

2 垂木掛けの取付け

●垂木掛けの躯体取付け穴（φ6.5）を、柱や間柱など躯体構造位置に合わせてあけ直した後取付けてください。



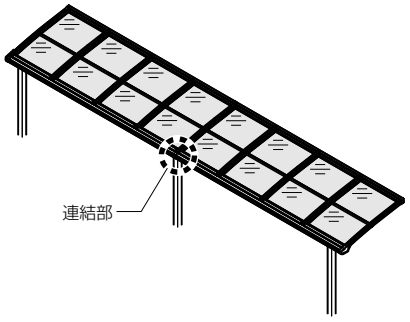
⚠ 注　意

●指定の個所に必ずシーリングしてください。

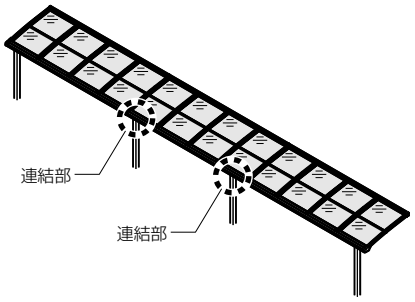
❸ 前枠・補強桁連結部の組立て

①前枠スリーブの取付け
②補強桁スリーブの取付け（出幅9尺）
③前枠ジョイントカバーの取付け

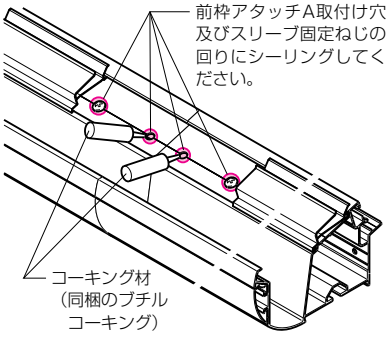
【連結部に柱を取付ける場合】



【連結部に柱を取付けない場合】



■D部詳細図



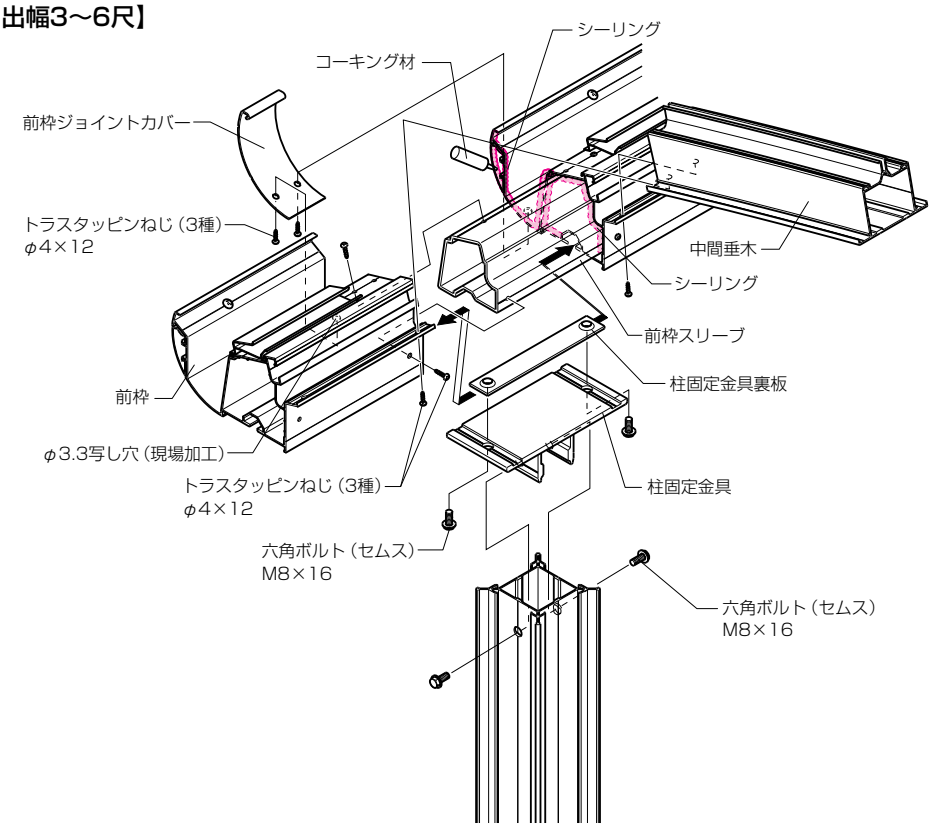
⚠ 注　意

●指定の個所に必ずシーリングしてください。

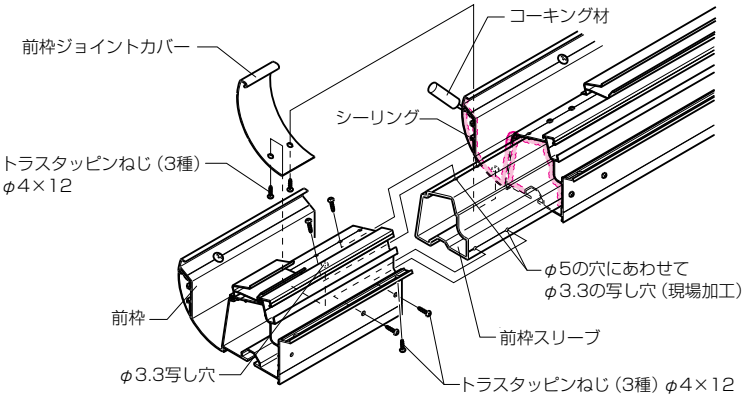
❸ 前枠・補強桁連結部の組立て

①前枠ジョイント部にシーリングをした後、前枠を前枠スリーブにねじ止めします。その後前枠雨どい内部をシーリングしてください。
②補強桁を補強桁スリーブにねじ止めします。（出幅9尺）
③前枠ジョイントカバーをねじ止めします。
※連結部には垂木が取付きます。

【出幅3～6尺】

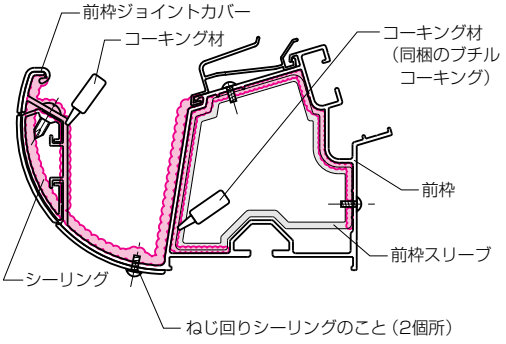


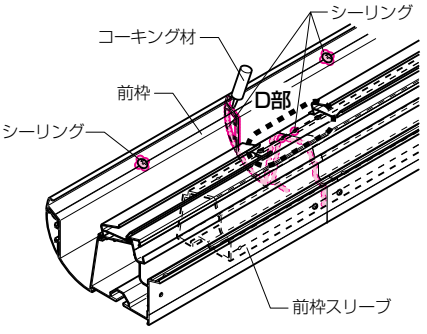
【連結部に柱を取付けない場合】



※前枠スリーブをねじ8本で固定してください。

※ジョイント部シーリング個所

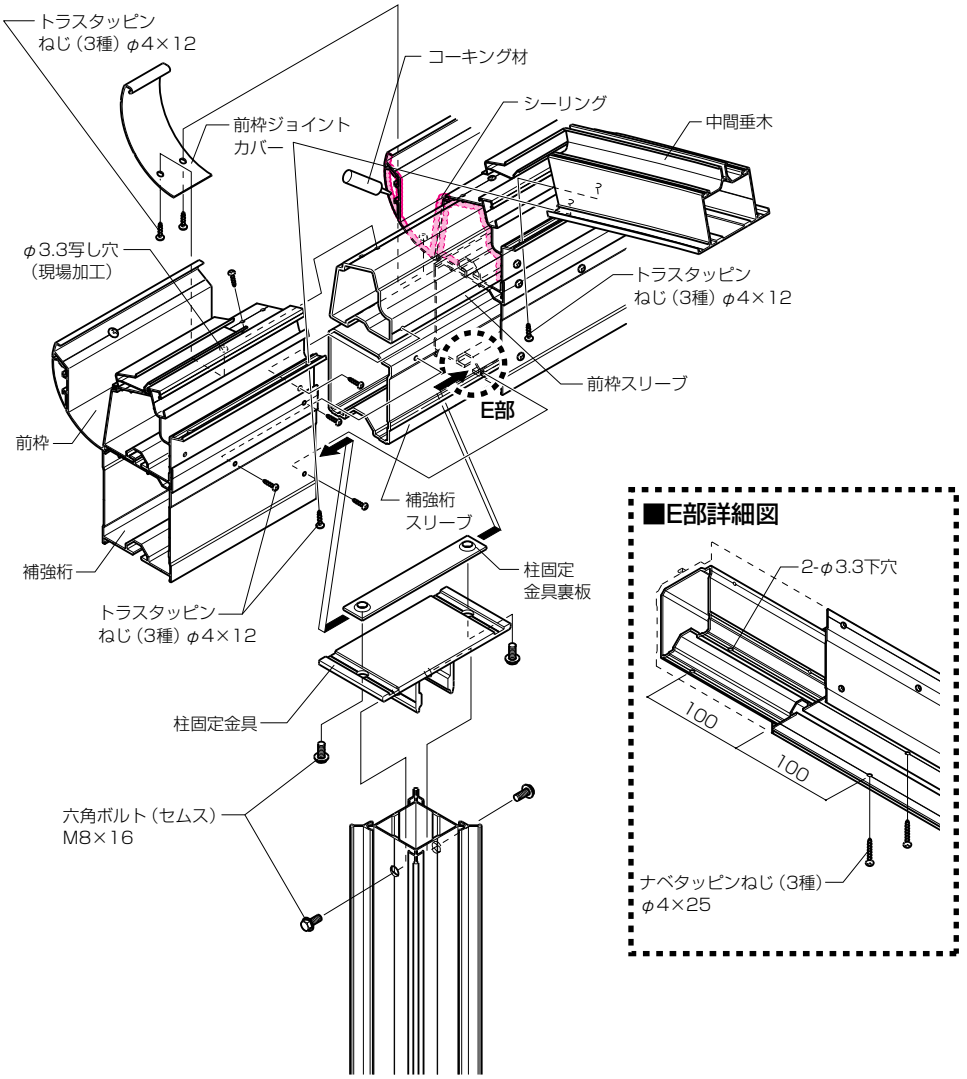




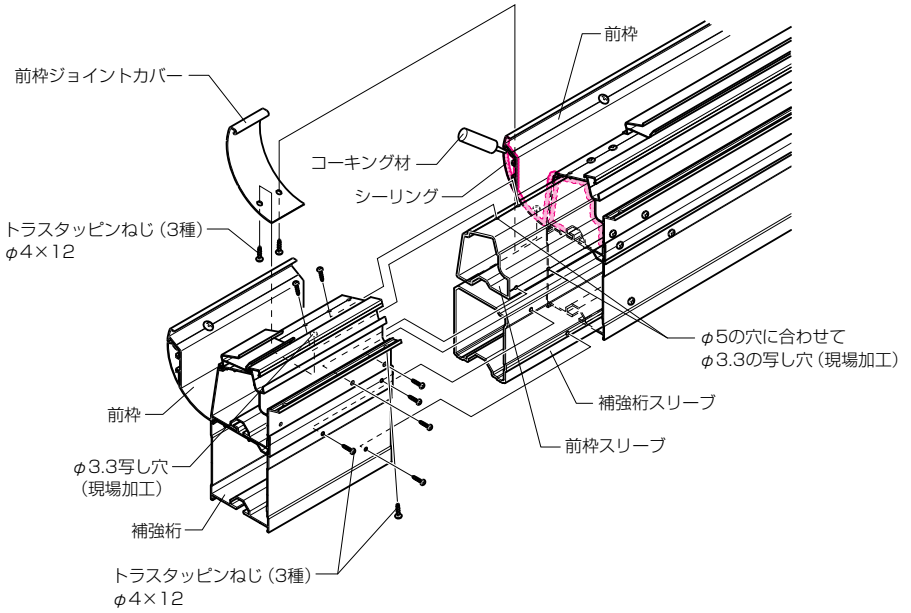
⚠注　意

●指定の個所に必ずシーリングしてください。

【出幅9尺】



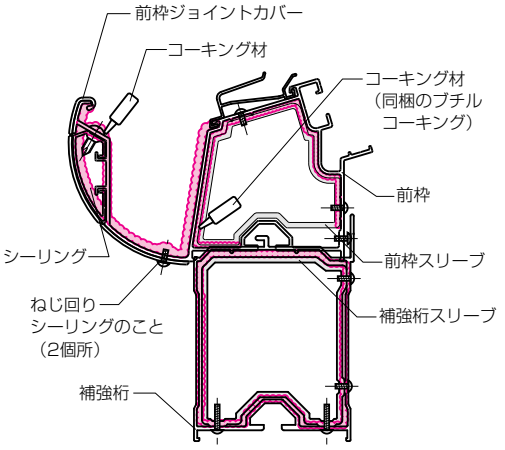
【連棟部に柱を取付けない場合】



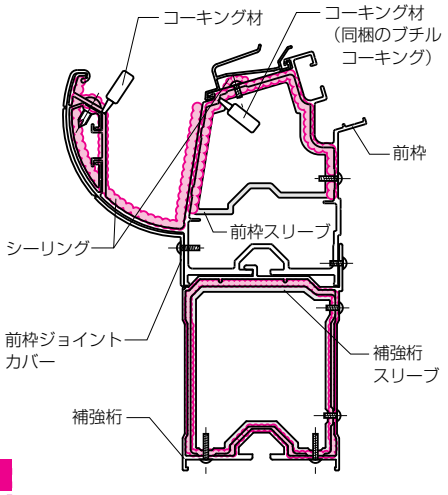
※前枠スリーブ・補強桁スリーブをそれぞれねじ8本で固定してください。

※ジョイント部シーリング個所

【600タイプ　出幅9尺】

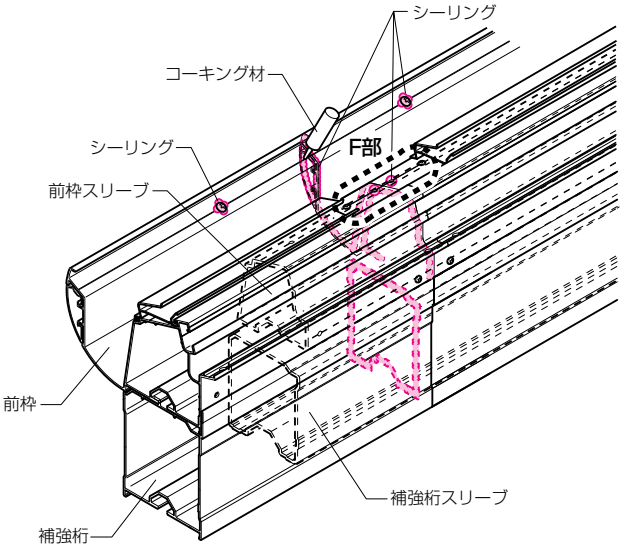


【1500タイプ　出幅9尺】

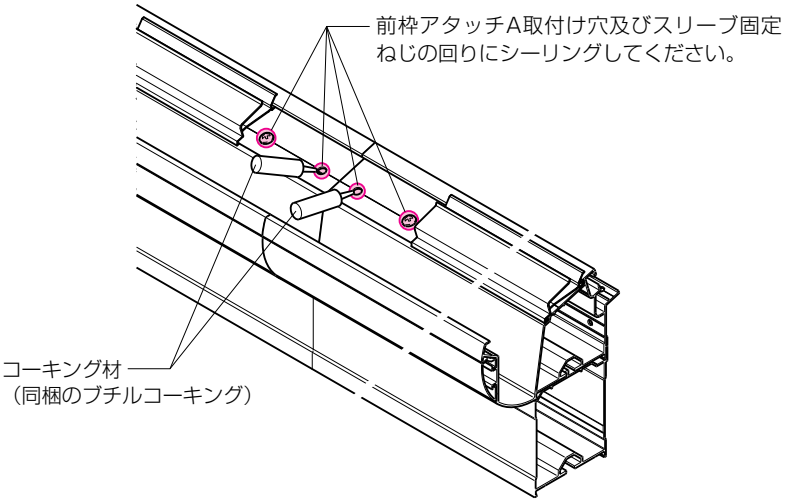


⚠ 注　意

●指定の個所に必ずシーリングしてください。

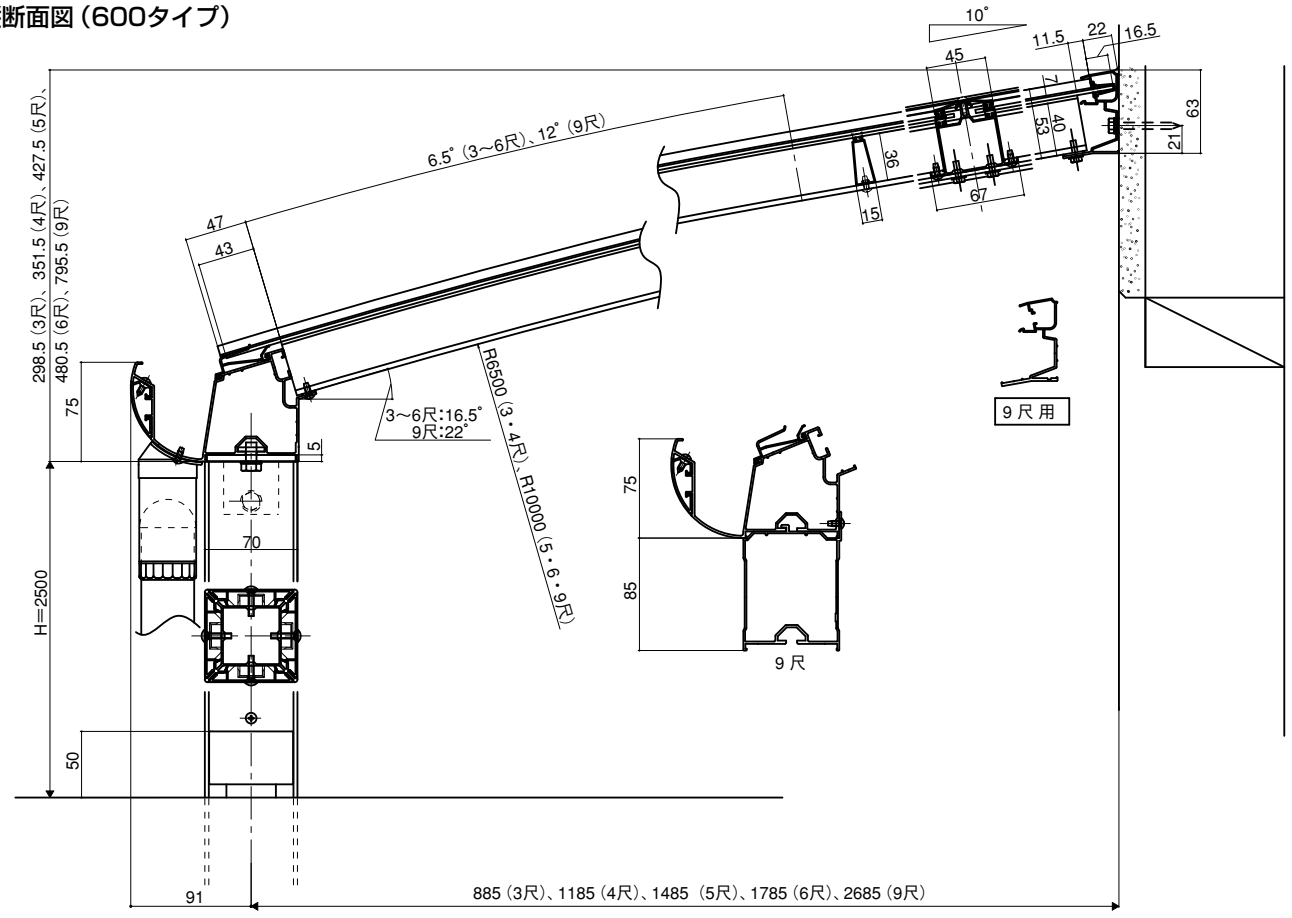


■F部詳細図

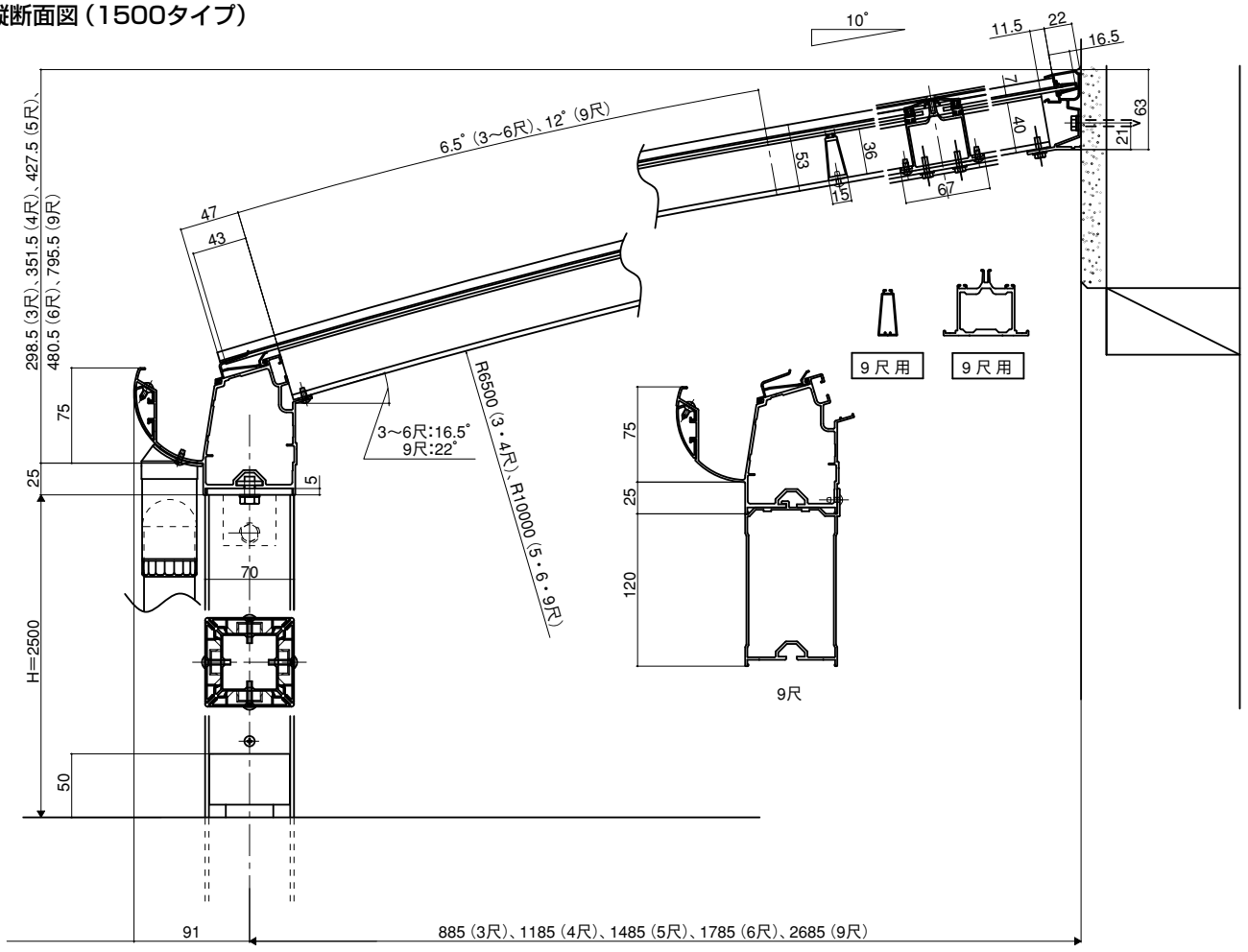


■納まり図

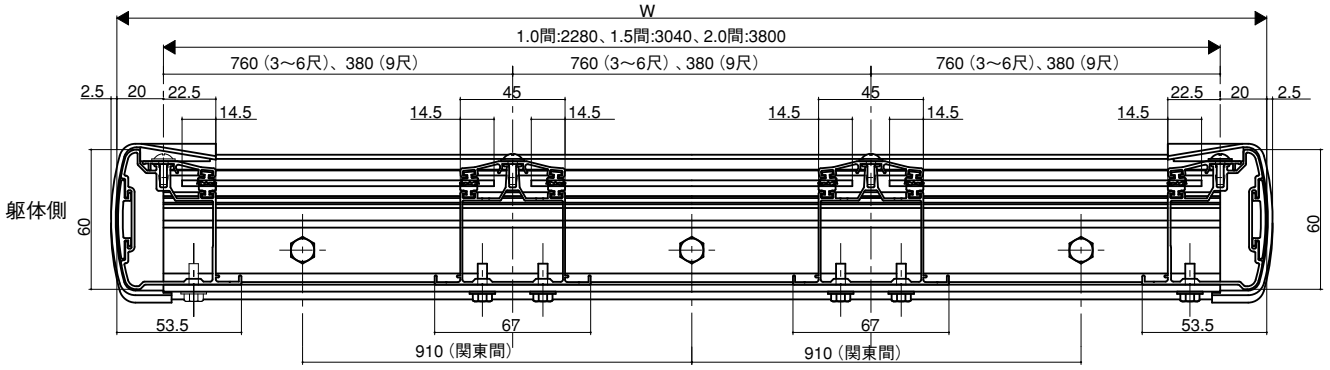
●縦断面図（600タイプ）



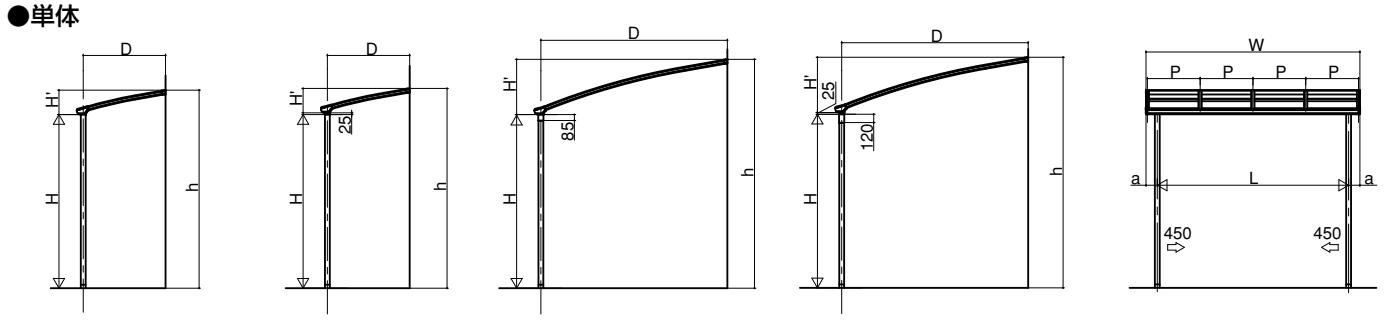
●縦断面図（1500タイプ）



●横断面図



●単体



600タイプ、1.0～2.0間、3～6尺　1500タイプ、1.0～2.0間、3～6尺　600タイプ、1.0～2.0間、9尺　1500タイプ、1.0～2.0間、9尺

※本図は標準納まりを示す。 長尺柱の長さは、標準納まりの＋600mm。

出幅

呼称	D
3尺	885
4尺	1185
5尺	1485
6尺	1785
9尺	2685

高さ

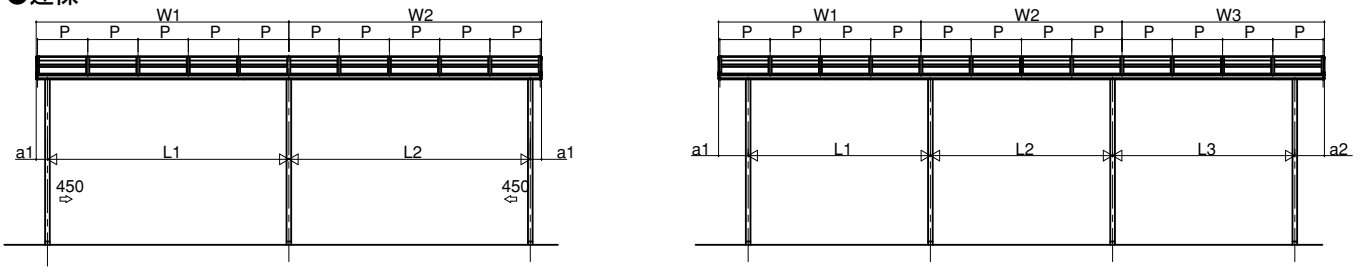
	Lタイプ		
呼称	H	H'	h
3尺	2500	298.5	2798.5
4尺		351.5	2851.5
5尺		427.5	2927.5
6尺		480.5	2980.5
9尺		795.5	3295.5

※h'（1500タイプの場合）は、h＋25mm。
※本図は、標準納まりを示します。
　長尺柱の長さは、標準納まりの＋600mmになります。

間口（関東間）

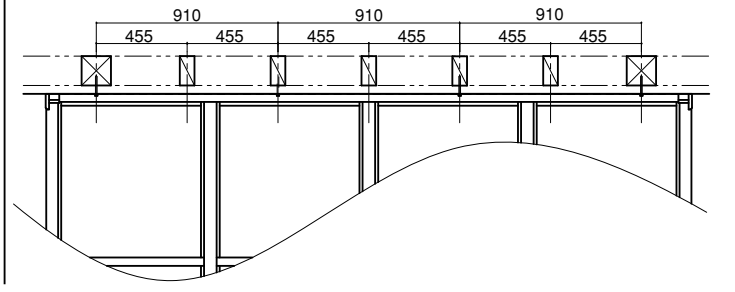
間口	P	L	W	a
1.0間	760	1850	2320	235
1.5間		2755	3080	162.5
2.0間		3650	3840	95
2.5間		4605	5360	377.5

●連棟



※本図は600タイプ、3～6尺の納まりを示す。9尺及び1500タイプの納まりは単体納まりと併せて参照のこと。野縁本数は伏図（アルファテラスＬ型）参照のこと。
※本図は、標準納まりを示す。長尺柱の長さは、標準納まりの＋600mm。

間口（関東間）

間口	P	L1	L2	L3	W1	W2	W3	a1	a2
3.0間（1.5＋1.5）	760	2755	2755	―	3060	3060	―	305	305
3.5間（1.5＋2.0）		2755	3650	―	3060	3820	―	305	170
4.0間（2.0＋2.0）		3650	3650	―	3820	3820	―	170	170
4.5間（1.5＋1.5＋1.5）		2755	2755	2755	3060	3040	3060	447.5	447.5
5.0間（1.5＋2.0＋1.5）		2755	3650	2755	3060	3800	3060	380	380

〈木造軸組工法関東間躯体納まり図例〉